



佐沼警察署生活安全課  
佐藤 義宏 課長

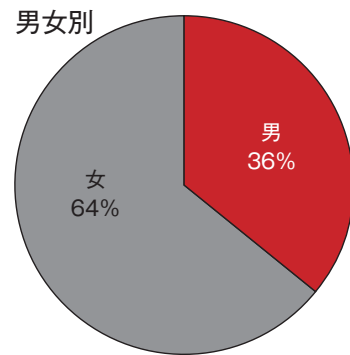
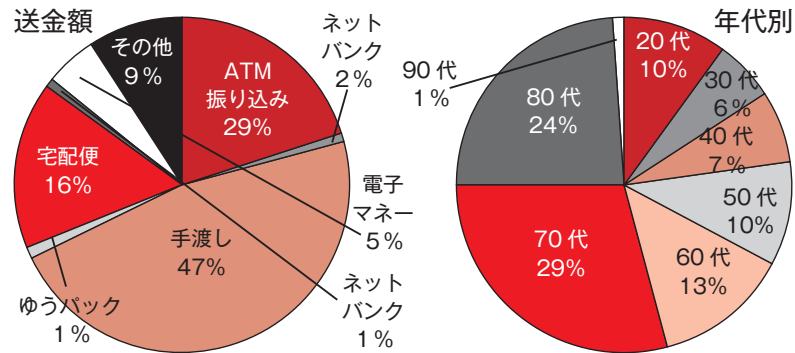
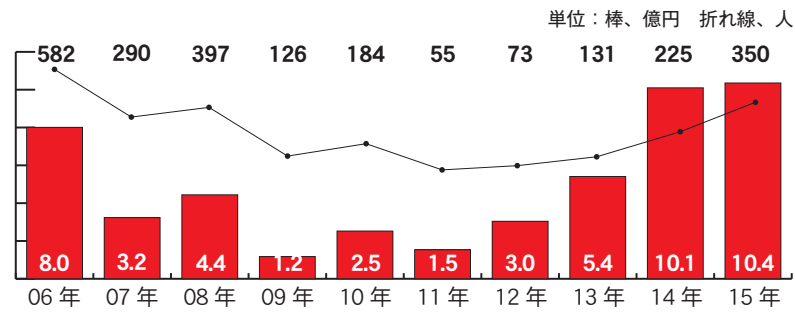
潜在的な被害者は多い  
違和感覚えたら相談を

近年、特殊詐欺の被害は全国的に増えています。市内では、年に1、2件程度で、本年は1件、特殊詐欺と認知していますが、未遂に終わっています。しかし、届けがないからといって安心できません。誰にも相談できず、届け出をしていない被害者は、潜在的にかなりいると推測され、実際には相当な件数、金額だと考えられます。

振り込み詐欺の予兆電話は、毎月数件確認されています。詐欺だけでなく、犯罪の予兆がある場合は、みやぎセキュリティメールで随時情報を発信しています。また、市内金融機関と連携し、大口の振り込みがある場合、面談調査を実施し、詐欺被害の防止に努めています。

詐欺犯にお金を取られないためには、どのような詐欺があるかを知る必要があります。自分だけではなく、家族や身の回りの人たちと共有しておくべきです。一度話を聞いておけば、詐欺犯から連絡が来た際、違和感を覚えるはずですが、現金を要求する連絡が来たなら、まず家族などに相談し、詐欺だと気付いたら警察までご連絡ください。

06年からの県内の特殊詐欺被害認知状況



2016年9月末  
県内特殊詐欺  
認知状況

資料提供：宮城県警察本部  
生活案全部

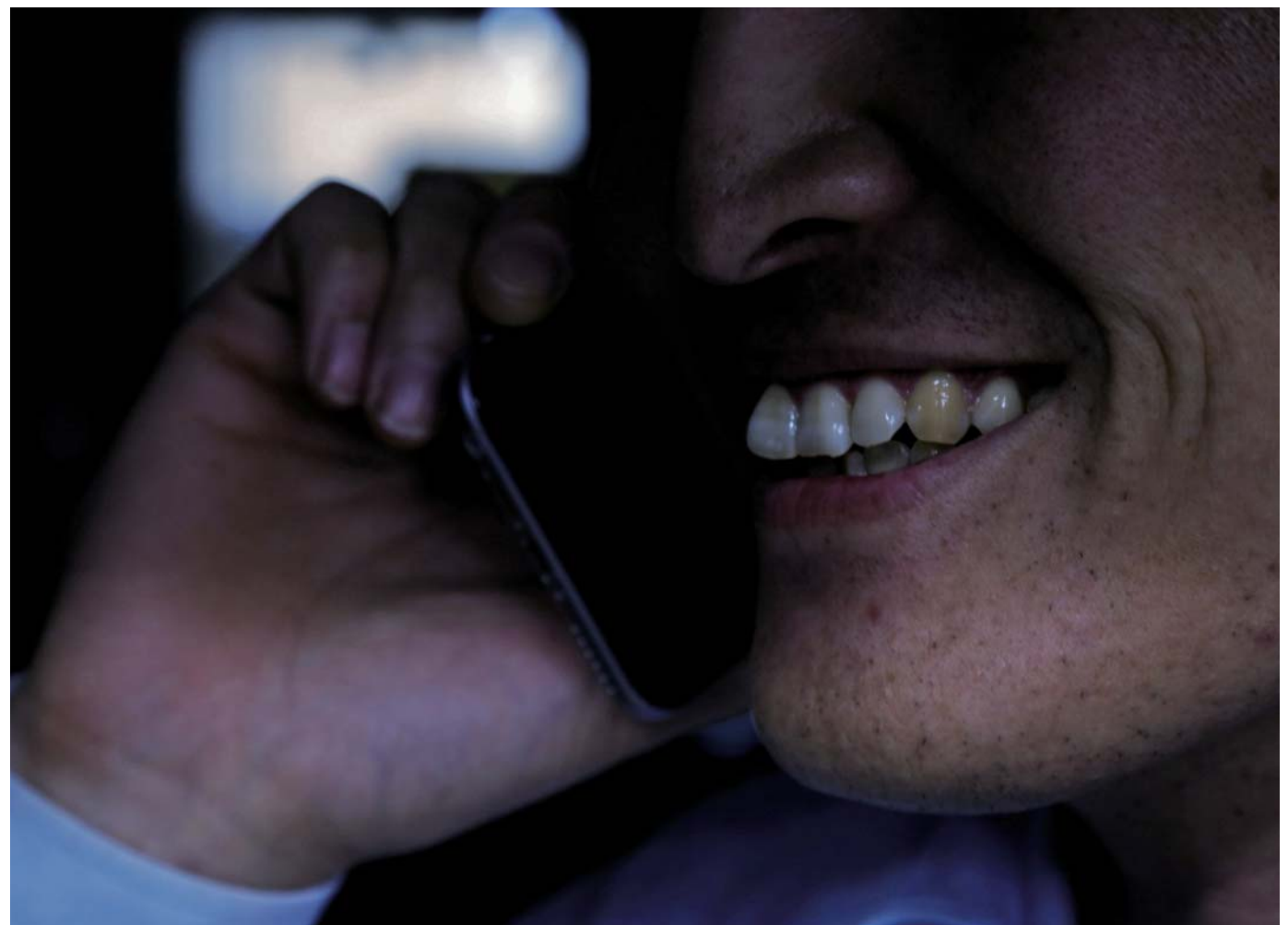
日々巧妙化する手口

特殊詐欺に対して、警察、自治体や金融機関は連携して、詐欺被害防止の普及啓発や現金自動預け払い機(ATM)の振り込み限度額を設けるなど、さまざまな対策を講じてきた。しかし、詐欺犯は、ATMが駄目なら大金は直接手渡し、少額の場合は、コンビニで購入できる電子マネーを利用するなど、常に新たな手口を考えてくる。巧妙化する手口に「まずは、どのような詐欺があるかを知ること。そして、電話などで現金を要求してくるものは、詐欺の可能性が高いので十分注意してほしい」と佐沼警察署

佐藤義宏生活安全課長は注意を促す。県内詐欺被害者の年代別構成は、約7割が60歳以上で、性別は女性が64%と大半を占める。佐藤課長は「高齢の女性がだまされやすいというより、そこを標的にする詐欺犯の手口が悪質。家族の不幸を、穏便に解決しようとする女性心理に付け込んでくる。まずは内緒にせず、家族や信頼できる人に相談してほしい」と一人抱え込まないことを勧め

振り込み詐欺被害者は女性が多いのに対して、出会い系サイト被害者は男性が多い。なかなか良縁に恵まれず、結婚への意識が強い男性に被害者が多い傾向だ。また、間違っ

出会い系サイトは、異性とメールや電話でのやり取りにポイントが必要となる。そのポイントは○ポイント○円などと設定され、この単価が1回何万円などと、非常に高額な請求をされることがある。他人にサイト利用を知られたくないという思いから、そのまま支払ってしまうことが多いという。



# 狙われています あなたのお金

近年、全国で振り込み詐欺などの「特殊詐欺」や「出会い系サイト詐欺」などが頻発し、被害は増大している。宮城県も例外ではなく、その被害額はここ2年、いずれも10億円を超えている。年末年始を控え、詐欺の被害も増えやすいといわれているこの時期。詐欺に遭わないためにはどうすればいいか考える。

年間10億円を超える被害

1990年代後半から急激に増えた「振り込み詐欺」をはじめとする「特殊詐欺」。「もしもし、オレオレ」などと息子や孫を装い、泣きながら電話をかけてきて、「事故を起こしてしまった。示談金を払わなければならない」「仕事を失敗をして、お金を振り込まないとクビになる」などと語ることから「オレオレ」詐欺と呼ばれた。

この手法から派生して、千差万別の手口が用いられたことから「振り込み詐欺」と称されるようになった。

時を同じくして、携帯電話やインターネットなどのIT技術が急激に発展。インターネットのサイト上で異性が知り合う「出会い系サイト」が流行し始めた。流行が落ち着き始めた頃、架空請求などの詐欺行為が増大。多くの人の携帯電話に、毎日大量の迷惑メールが届くようになった。

県内でも、詐欺行為による被害額は増加傾向にある。2011年は東日本大震災の影響などで一時的に減ったものの、14、15年は10億円を超え、過去最大の被害額となっている。